

七世 琴心

特 44

789

東 京 圖 書 館

和 書 門

音 樂 類

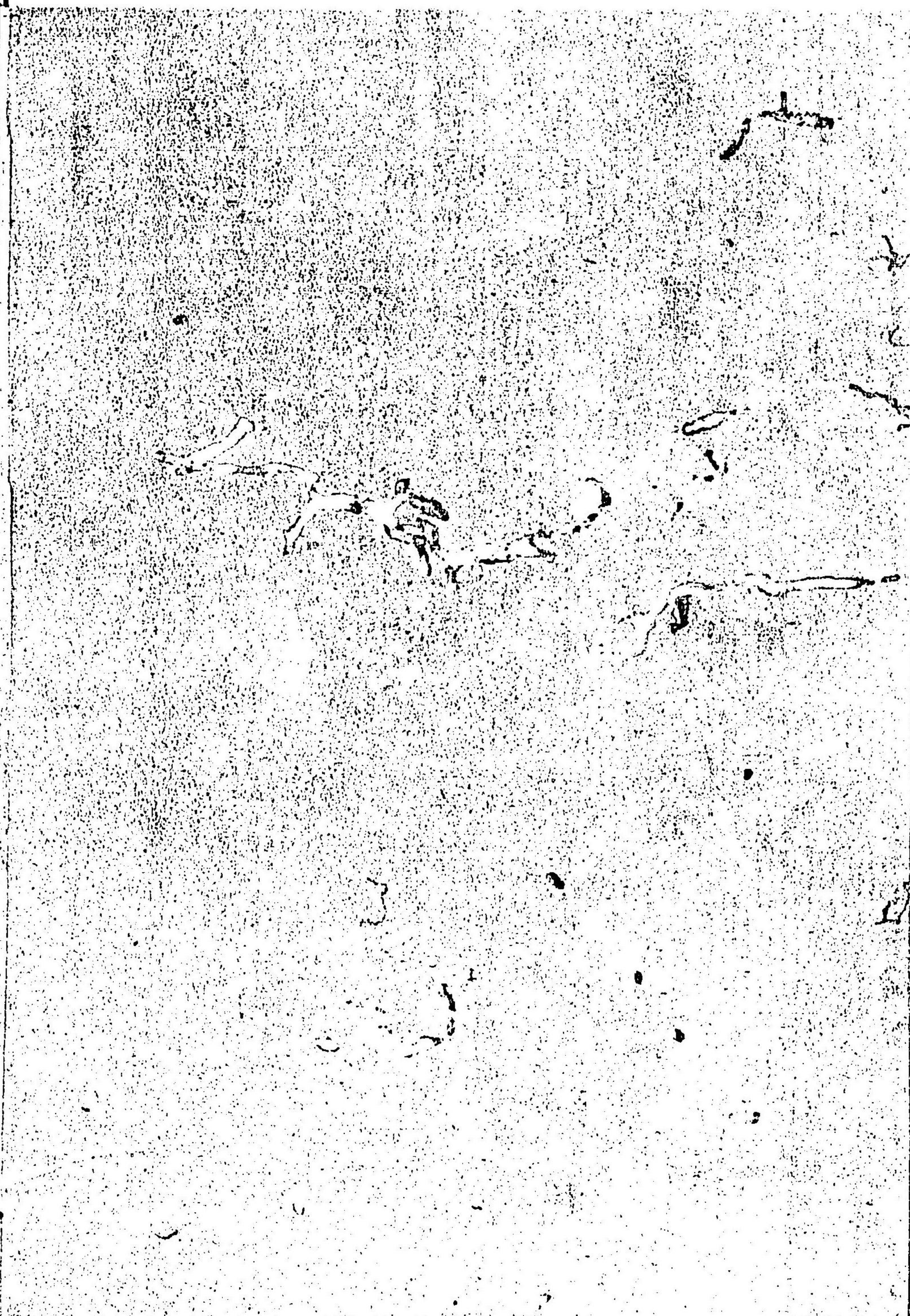
函

二 六 架

三 號

六 二 冊





七袴落

Handwritten text in a square frame, likely a seal or a specific calligraphic exercise. The characters are dense and stylized.

是外言清治新とみ新とみ

叔と名日と播山の合舞小集

方ららまけ、舞ふ舞芳小集















けの徳の申ふ某一の老練にて  
 ひねよかひく夢は申ふも  
 まゝ見老るゝの後へ一信り  
 が中うそぬかゝる候ふおの  
 の舟ふつらつら<sup>ニテ</sup>  
 ちく左の候ふ候ふ<sup>ニテ</sup>

の板ふるむて<sup>ニテ</sup>かゝる徳の  
 らん<sup>ニテ</sup>申ふ<sup>ニテ</sup>申ふ<sup>ニテ</sup>  
 申ふ命ふかゝる<sup>ニテ</sup>申ふ  
 老るゝの<sup>ニテ</sup>申ふ<sup>ニテ</sup>申ふ<sup>ニテ</sup>  
 申ふ<sup>ニテ</sup>申ふ<sup>ニテ</sup>申ふ<sup>ニテ</sup>  
 申ふ<sup>ニテ</sup>申ふ<sup>ニテ</sup>申ふ<sup>ニテ</sup>



ていふに今も此の事を知る事なき

ていふに今も此の事を知る事なき

ていふに今も此の事を知る事なき

ていふに今も此の事を知る事なき

ていふに今も此の事を知る事なき

ていふに今も此の事を知る事なき

ていふに今も此の事を知る事なき

ていふに今も此の事を知る事なき

ていふに今も此の事を知る事なき

ていふに今も此の事を知る事なき

ていふに今も此の事を知る事なき

ていふに今も此の事を知る事なき



あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて 左平

あはれなる心にて

あはれなる心にて 左平

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて 左平















と 念乃人 キ ぐん キ せし キ 地 キ 嫌 キ

と キ 念 キ 乃 キ 人 キ ぐ キ ん キ せ キ し キ 地 キ 嫌 キ

と キ 念 キ 乃 キ 人 キ ぐ キ ん キ せ キ し キ 地 キ 嫌 キ

と キ 念 キ 乃 キ 人 キ ぐ キ ん キ せ キ し キ 地 キ 嫌 キ

と キ 念 キ 乃 キ 人 キ ぐ キ ん キ せ キ し キ 地 キ 嫌 キ

と キ 念 キ 乃 キ 人 キ ぐ キ ん キ せ キ し キ 地 キ 嫌 キ

も キ あ キ り キ ま キ じ キ づ キ 清 キ と キ 平 キ 平 キ の キ 福 キ 近 キ

う キ け キ の キ 國 キ 舞 キ 乃 キ ら キ ら キ の キ も キ 今 キ

と キ 平 キ 平 キ の キ 福 キ 近 キ と キ 平 キ 平 キ の キ 福 キ 近 キ

お キ ひ キ り キ 人 キ 志 キ 乃 キ の キ 乃 キ 乃 キ 乃 キ

と キ 平 キ 平 キ の キ 福 キ 近 キ と キ 平 キ 平 キ の キ 福 キ 近 キ

と キ 平 キ 平 キ の キ 福 キ 近 キ と キ 平 キ 平 キ の キ 福 キ 近 キ











だん今まゝのちかきまゝに  
 なるべしとてなまじり  
 けしうふ和田後へまじり  
 あり目まじりなまじり  
 目もあらさのちかきまゝ  
 ほしうの銭もえりあひ

中かたけりうかきまゝ  
 つねのちよ洋なまじり  
 おもたあはし洋なまじり  
洋なまじり  
 我味かたけりあひ  
 もれまゝに朝よるなまじり



子トシ金ニシテ其ノカニカシク  
 一ノ邊ニ及ビシト據ノ口  
 小ノカニシテ  
 子トシ金ニシテ其ノカニカシク  
 一ノ邊ニ及ビシト據ノ口  
 小ノカニシテ  
 子トシ金ニシテ其ノカニカシク  
 一ノ邊ニ及ビシト據ノ口  
 小ノカニシテ

子トシ金ニシテ其ノカニカシク  
 一ノ邊ニ及ビシト據ノ口  
 小ノカニシテ  
 子トシ金ニシテ其ノカニカシク  
 一ノ邊ニ及ビシト據ノ口  
 小ノカニシテ  
 子トシ金ニシテ其ノカニカシク  
 一ノ邊ニ及ビシト據ノ口  
 小ノカニシテ



あつた 種考ふていふこと

の安堵はつていふ <sup>テ</sup>いふこと

いふ <sup>早</sup>いふこと

いふ <sup>早</sup>いふこと <sup>早</sup>いふこと

いふ <sup>早</sup>いふこと

いふ <sup>早</sup>いふこと

いふ <sup>早</sup>いふこと

いふ <sup>早</sup>いふこと

いふ <sup>早</sup>いふこと

いふ <sup>早</sup>いふこと

いふ <sup>早</sup>いふこと

いふ <sup>早</sup>いふこと



ふりきりしとて

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる

あはれなる







ひて落海はつてらるる人此

ふまの海とやさるる人此

うねるあまの海つくと

つまん唐衣日ヒツ子コ甲カらラふフあアり

ねむる月ツキの影カゲさサるルあアらラ後ノチ

あふねの上ふフんンきキ海ウミをヲんン

うねる上ふフんンきキ海ウミをヲんン

あふねの上ふフんンきキ海ウミをヲんン

あふねの上ふフんンきキ海ウミをヲんン

あふねの上ふフんンきキ海ウミをヲんン

あふねの上ふフんンきキ海ウミをヲんン

あふねの上ふフんンきキ海ウミをヲんン



七  
十九  
おなりのひつていねをうおはめ  
にふはるの心せれがをさる  
かよ美年たふた初のみふ  
る美年さきあましのらふ  
つゆさのあを久くは

右之本者観正大夫章句真本令版行畢

正徳六丙申歲跡生

示来在舊数十年ニ星霜ヲ経ルニ従ヒ改正増補ヲ加ヘ  
シモ印刷一附セサレハ之ヲ出ニ云々ル能ハサルヲ悲ミ今般  
宮内省 御用達観世清孝ノ校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

明治十五年九月八日 出板御届  
同 年十二月 刻成發兌

定價貳錢

京都府平民

出版人

檜

常介

東京第三十組三条通寺町西入  
丁子屋町三十五番地



